

LIEBESTRÄUME

愛の夢

Music by Franz Liszt

F・リストの作によるこの曲は、「テノールもしくはソプラノ独唱用の3つの歌曲」の第3番で、ドイツ・ロマン派詩人フライリヒラートの詩“愛し得る限り愛せ”に作曲したものですが、ピアノ独奏用にも編曲されています。リストは作曲家であると同時に、19世紀最大のピアニストとしても有名です。それだけにこの原曲も、演奏家がピアノの前で自由にイメージをくり広げた即興演奏をそのまま譜面に再現したともいえる流れのような自然な情感が、私たちを酔わせてくれます。

ここでは、主要モチーフをA-A-B-Aの形にし、いろいろなリズムを取り入れて変化をつけてみました。まず、[A]は原曲どおり%のリズムで、やさしくささやくように歌います。アルペジオを美しく。最後でいったんおさめて、[B]からは1小節を2つに分け、ワルツの感じでリズミックに弾きましょう。細かいコード・チェンジで、メロディのすき間を埋めていきます。[C]からは4beat。そして[D]で、KeyがCからE^{flat}に変わります。ロック・コードで

タイトに弾いて下さい。[E]はJAZZでいわゆるラテンと呼んでいる、ルンバになります。曲の一部をアフロやルンバにするアレンジは、1950年代のイースト・コースト系ハード・バップの演奏によく見られるものです。左手で刻む、黒人らしいファンキーなリズム・チェンジがポイントですので、軽快なテンポでノリノリで弾いて下さい。11小節目から3小節間はテンポ・ルバートで勢いをつけてなだれ落ちるように、4小節目で落ち着き気味に上にあがると効果的です。次に、[G]に向けてテンポ作りをしながら2拍3連を弾き、[G]ではクライマックスの華やかさを出して、ゴージャスに、最後4小節はオーケストラをバックに弾いているような気分で、大きく派手にエンディングを作ります。

全体的に、流れにのったスムーズなテンポ・チェンジを心がけましょう。又、右手小指のメロディを浮きたたせて下さい。

(遠藤律子)

Staff 1 (Top):

- Section A (C major, 6/8 time): Eighth-note patterns.
- Section E (E-flat major, 4/4 time): Eighth-note patterns.

Staff 2 (Middle):

- D7(13) (G major, 4/4 time): Eighth-note patterns.
- Chords: F(onG), G, C6, Dm9, G7(b9), C.

Staff 3 (Bottom):

- Section A (E-flat major, 4/4 time): Eighth-note patterns.

D7 (on G) F G (on G) C6 (on G) Dm9 G7(b9) C B♭Δ7 BΔ7 C6

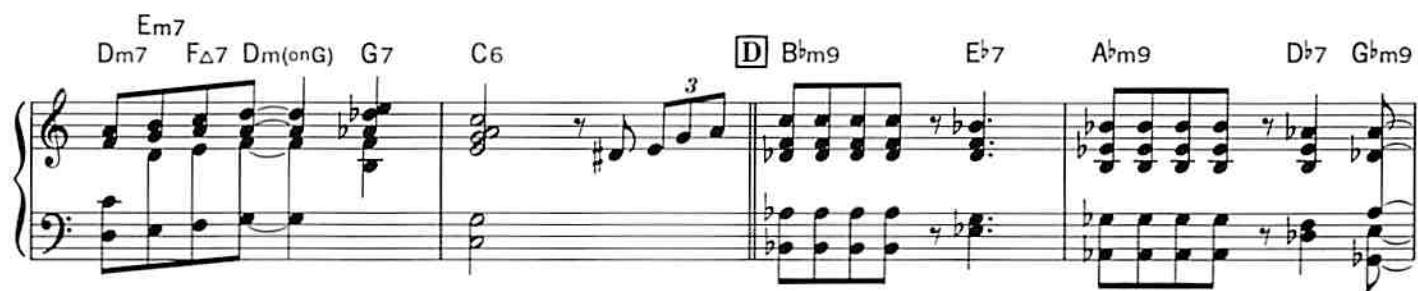
ワルツの 感じで
B Fm7 B♭7 CΔ7 Em7 Dm7 CΔ7 Bdim B♭7 Am A(onB) B7

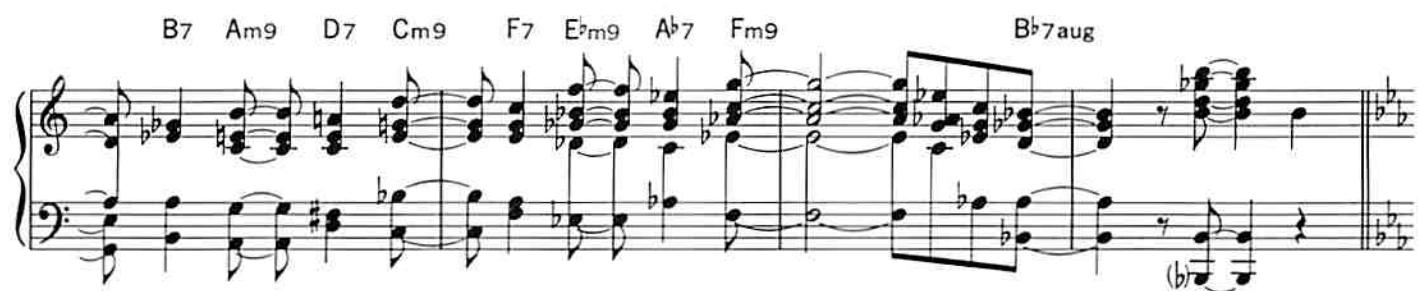
EΔ7 G♯m F♯m EΔ7 D♯m7 D7 G♯m7 E7 F♯7 G♯7

Fm6 G7(b9) A♭7(♯11) E♭m7 A♭7

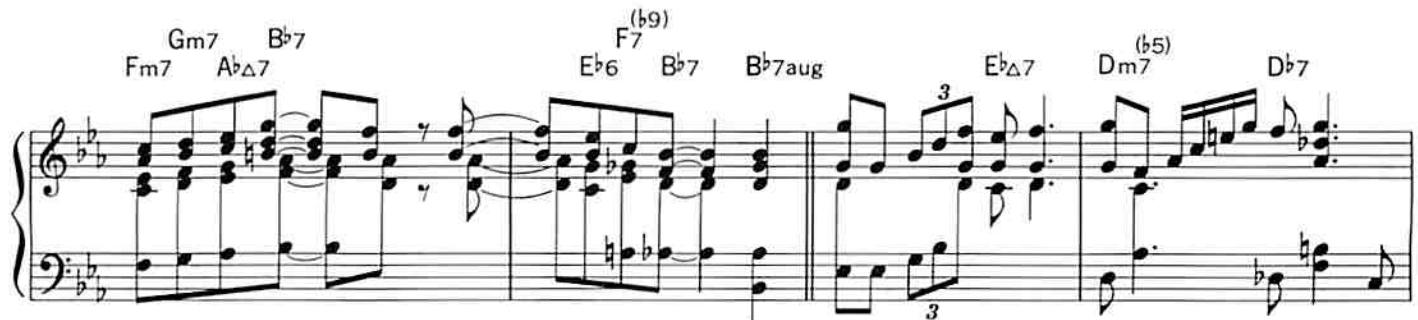
G7(b9) E(onG) G7 Cm6 G7 Cm6 G7 D7 G7 G7aug











C7 G7 C7 F9
 Fm7 Gm7 Fm(on Bb)
 AbΔ7 Bb7 Eb

[F] A♭m7 D♭7 D7 E♭Δ7
 ルンバ Cm7 F7 G♭7 GΔ7

Em6 B7 A♭m9

B♭7aug B7 B♭7(b9)

L.H. R.H. L.H.R.H. Bdim

B_b^(b9) Bdim

B_b7 (on A) F₇ B_b7 E_b B_b7 E_b^Δ7 G D_m^(b5) 9 D_b7 gliss.

C_{7(b9)} F₉ F_m7 B_b7

G_b^Δ7 B_Δ7 (8va) F_m7 D(on E_b) D_b7 B₇ B_b7 E_b^Δ7

B_b7 E_b7 A_b7 D_b7 G_b7 B₇ E₇ E_b^Δ7 E_b6